

定年退職のご挨拶

私の定年退職に際し、この度は定年退職記念号をだしていただき心から感謝申し上げます。中京ロイヤーは、中京大学法務研究所の前身である中京大学法科大学院法曹養成研究所の機関誌として、平成16年に創刊されたものです。中京大学法科大学院は、短い間ではありましたが、廃止されるまでに、55名の司法試験合格者を世に送り出しました。現在、愛知県弁護士会を中心に、全国で、弁護士として活躍しています。

私事を述べれば、中央大学大学院博士課程を終了後、札幌学院大学法学部に助教授として就任し、その後、平成元年に、中京大学へと転籍いたしました。法学部、法科大学院、そして、法務総合教育研究機構と、3つのセクションで教授職を任ぜられてまいりましたが、法学部時代には、法職課程という課外講座を創設し、知り合いの士業の先生方のお力を借り、公務員試験はもちろん、宅建、行政書士、社労士、税理士、弁護士等の合格者を輩出いたしました。これは、現在の中京大学資格センター講座の前身にあたるものとなりました。また、法科大学院時代は、院長として、定員30名という小さな法科大学院ではありましたが、55名の司法試験合格者を輩出いたしました。法科大学院閉廃止後は、法務総合教育研究機構長として、法科大学院修了生の司法試験受験生の指導の傍ら、法学部・経営学部・経済学部の学生への個人指導により、中京大学初となる公認会計士試験現役合格を数年に亘り輩出いたしました。

このように振り返って見ますと、講義や研究の傍ら、多くの資格試験・公務員試験合格のお手伝いをしてきたということ、自分ながら、意味深く感じ入るところでございます。

また、法科大学院開設に合わせ、職務上の理由から弁護士登録をいたしました。その関係で、私の専門領域とも相まって、例えば、フタバ産業社外調査委員会委員長など、企業法務に深く関わることとなりました。愛知県弁護士会における実務研修講師をはじめとして、さまざまな講演・セミナーの講師役も担わせていただきました。この分野も、研究と実務の架橋という法科大学院制度創設の理念を私なりに体現したものと感じています。

そして、その延長として、法科大学院廃止後に、法科大学院付置研究所であった法曹養成研究所を改組し、中京大学付置研究所として、法務研究所を創設しました。その研究所では、弁護士の方々と共同で研究プロジェクト「会社法判例研究プロジェクト」を立ち上げ、名古屋地判・高判を中心に、理論的かつ実務的な研究を続けております。これもまた、理論と実務の架橋としての成果と感じています。

最後に、中京大学並びに法務研究所のますますの輝かしい未来を祈念して、ご挨拶とします。

皆さん有難うございました。

中京大学法務総合研究教育機構長
中京大学法務研究所長

池野 千白